

2025（令和7）年度 大阪府内地域連携プラットフォーム
分科会1企画 第1回共同SD研修 実施報告書

1. 開催概要

- 日時：2025（令和7）年5月23日（金）14：00～17：00
※名刺交換会・情報交換会 17：00～17：30
- 会場：貸会議室ティーオージー 1号室（大阪市北区梅田1丁目1-3 大阪駅前第3ビル17階）
- テーマ：私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・PF型）を深掘りし、実践に繋げる
～大学間連携を加速するプラットフォーム担当教職員のためのワークショップ～
- 講師（大学名五十音順）：
 - ・大阪医科薬科大学 薬学総務部 総務課 大野 真紀 氏
 - ・大阪観光大学 特務プロジェクト室 室長 佐藤 智子 氏
 - ・大阪女学院大学 事務局 管理課 課長 橋本 健 氏
 - ・大阪体育大学 庶務部 学長室担当 佐藤 浩輔 氏
 - ・関西大学 総合企画室 企画管理課 課長補佐 菅原 良将 氏
 - ・桃山学院大学 大学統括部 学長室 課長補佐 森下 貴史 氏
- 司会・コーディネーター（大学名五十音順）：
 - ・大阪経済大学 学生・キャリア支援部 部長 加藤 正憲 氏
 - ・大阪体育大学 庶務部 学長室担当 佐藤 浩輔 氏
- 受講者数：20 大学 32 名
- 企画・運営：大阪府内地域連携プラットフォーム 分科会1

2. 開催趣旨

私立大学等改革総合支援事業、特にタイプ3・PF型に関する知識習得や理解の向上を図り、プラットフォーム事業や申請に係る推進力を強化する。

3. 到達目標

- ・私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）の目的と背景について説明することができる。
- ・自大学における設問に関連する具体的な課題を説明することができる。
- ・グループワークを通じて参加者と意見交換できる。

4. 講義内容

- ・私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・PF型）について 講師：桃山学院大学
- ・大学等の計画へのPFの中長期計画の対応状況（個別⑥）講師：大阪医科薬科大学
- ・共同研究への参加（共通⑪・個別⑦）講師：関西大学
- ・共同FD・SDへの参画（共通⑯・個別⑬）講師：大阪女学院大学
- ・教職員の人事交流への参加（共通⑰・個別⑭）講師：大阪体育大学
- ・施設・設備の共同利用（共通⑱・個別⑮）講師：大阪観光大学

※共通・個別の設問番号は令和6年度のものを示す。



5. スケジュール

内 容	備 考
開会挨拶・スケジュールの確認	
参加者自己紹介・アイスブレイク	グループごとでの自己紹介、簡単なアイスブレイク
私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・PF型）について	事業概要、最新動向の説明、 質疑応答
各大学の事例紹介	各大学の取組の事例紹介、質疑応答
休憩	
グループディスカッション	(1)共通課題の整理と取組実施に向けたディスカッション (2)アクションプラン作成
グループ発表	グループ発表、質疑応答
研修の振り返り、総括	
閉会挨拶・事務連絡	修了証授与
名刺交換会・情報交換会	

6. グループ討議の共有

(1) 共通する課題（全体傾向）

- ・業務の属人化
- ・根拠資料や情報収集にかかる負担感
- ・学内・教員の巻き込みや理解の難しさ
- ・大学間連携のハードル（距離・関係性・設備）
- ・短期間での対応（7月の設問公表～10月末提出）への不安

(2) グループごとの討議内容

【Aグループ】

- ・課題：日常業務優先で補助金対応が後回し／教員協力の温度差
- ・アクション：
 - ▶Slackを“マッチングアプリ”のように使い、施設や研修企画の共有を促進
 - ▶根拠資料を共有し、視点の多様化で得点向上を図る
 - ▶生成AIを情報整理等に活用

【Bグループ】

- ・課題：情報収集の大変さ／他部門の理解・教員の協力が得にくい
- ・アクション：
 - ▶Slackを活用し、担当者間の情報共有・意識差を軽減

【Cグループ】

- ・課題：文系学部での共同研究が難しい／申請内容の理解不足
- ・アクション：
 - ▶グラウンド等の活用を通じた協定の可能性を探る
 - ▶教員へのアプローチは関係性の構築が前提

【Dグループ】

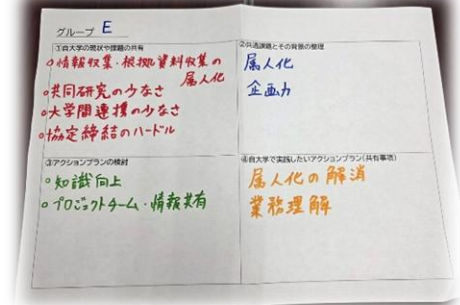
- ・課題：情報収集・施設設備の共有・対応の難しさ
- ・アクション：
 - ▶情報把握の業務フロー化（トップダウン→業務化→定期見直し）
 - ▶属人化対策としてワーキングチームの設置、若手 SD 研修を活用

【Eグループ】

- ・課題：情報収集の属人化／大学間連携の少なさ／協定締結のハードルの高さ／
- ・アクション：
 - ▶情報提供・知識共有の仕組み化
 - ▶プロジェクトチームを設置し、属人化の解消と組織的対応へ

【Fグループ】

- ・課題：他部署との連携・業務進捗への不安感
- ・アクション：
 - ▶7月の設問公表後、スケジュール管理の徹底と学内体制整備
 - ▶提出が間に合わない場合に備え、大学間の協定で補完できる体制の検討



6. 受講者アンケート結果 別紙のとおり

以上

**2025(令和7)年度 大阪府内地域連携プラットフォーム
分科会1企画 第1回共同SD研修 受講者アンケート集計結果**

回答者数22名 / 受講者数32名 回答率 68.8%

1. 本研修を受講した理由

・情報共有・情報収集のため
・自学の課題解決に向けた情報収集（8件）
・大学間連携強化のための情報収集
・今年度、獲得を狙っており、獲得された大学の取組みについて知りたかったため（2件）
・私立大学等改革総合支援事業(タイプ3)に対する理解を深めるため（4件）
・自身の業務の理解やスキルアップに参考になると感じたため（2件）
・今年度から担当になったので、補助金(タイプ3)について勉強するため（2件）
・各大学との交流・情報交換（3件）
・分科会の続きで開催されたため
・コンソーシアム事業に関心があったため

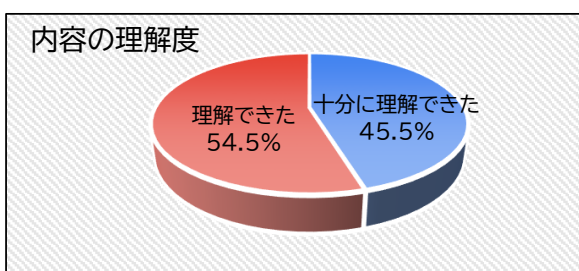
2. 研修内容について

(1) 内容の理解度

単位: 名

十分に理解できた	10
理解できた	12
ある程度理解できた	0
あまり理解できなかった	0

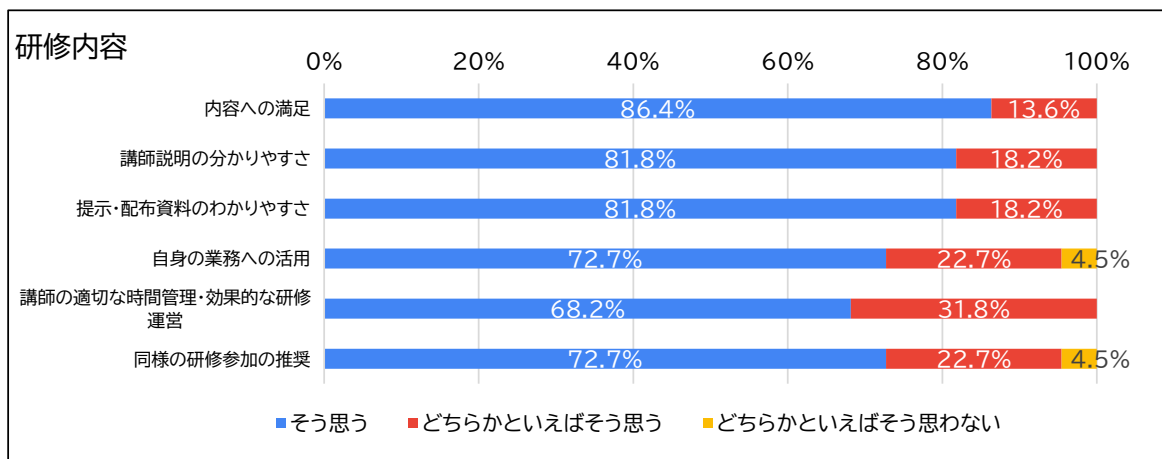
22



(2) 研修内容について

単位: 名

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
内容について満足している	19	3	0	0
講師の説明は分かりやすかった	18	4	0	0
提示・配布された資料は分かりやすかった	18	4	0	0
研修で学んだことは、自身の業務に活かせる	16	5	1	0
講師は適切な時間管理のもと、効果的な研修運営を行った	15	7	0	0
同様の研修が開催されれば誰かに勧めたい	16	5	1	0



(3) 受講してよかったと思う点

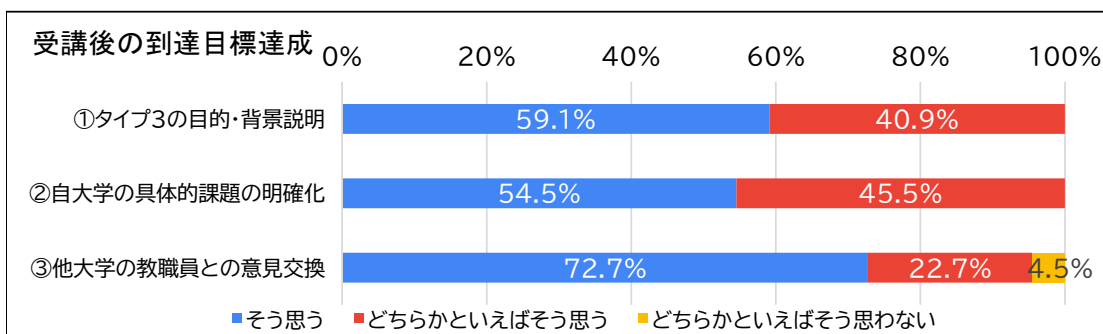
・他大学の熱量を推し量ることができた
・今年度の他大学の動きが把握できたり、同じような課題感を抱いているということを把握することができた
・対面開催により活発化した他大学との交流や意見交換（3件）
・他大学との連携など、課題解決に向けたヒントを得られた
・他大学の取組や具体例な部分を知り、共有できてよかった（4件）
・オブザーバーの方の進行が上手かった
・実際の取組み内容の根拠資料の揃え方、学内理解の得られ方の違い等を知ることができた
・グループワークで課題やアクションプランの共有ができた点
・補助金獲得に向けた点数獲得のみならず、実際に良い効果が得られている等の申請に際してヒントを得られた(2件)
・他大学職員の方と面識ができ、今後の連携の契機となり得る
・補助金申請担当職員が積極的に補助金獲得に向けて動いている事例が多く、とても良い刺激となった。 今後も大学間の情報共有を行っていくことができれば、PF全体の各取組に対する意識の底上げに繋がると思う
・自分の大学だけでなく、コンソ加入の全大学が採択されるようどのように取り組んだからいいかと思うよう意識が変わった
・改革総合支援事業そのものの理解や、他大学がどこで苦労しているか、プラットフォームとしてどのように大学間で連携すべきかを学べた点が良かった

3.到達目標達成度と受講後の効果

(1) 受講後、到達目標を達成できたか

単位: 名

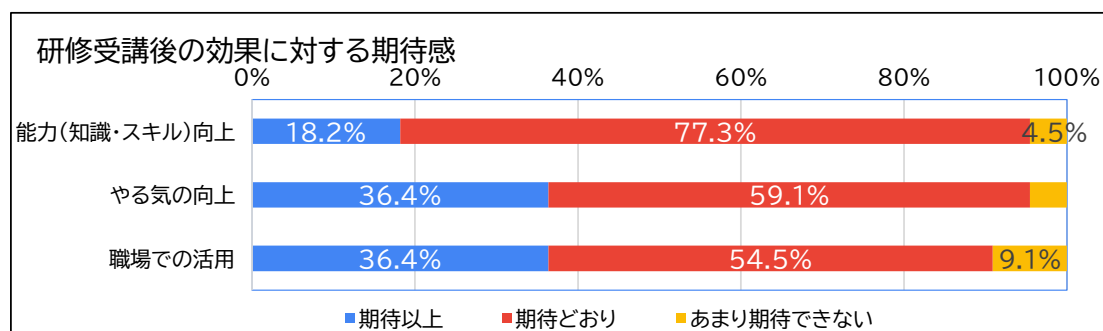
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①私立大学等改革総合支援事業(タイプ3)の目的や背景について説明できるようになること	13	9	0	0
②自大学における設問に関連する具体的な課題を明確にできるようになること	12	10	0	0
③グループワークを通じて、他大学の教職員と意見交換ができること	16	5	1	0



(2) 研修受講後の効果に対する期待感

単位: 名

	期待以上	期待どおり	あまり期待できない	期待できない
能力(知識・スキル)向上	4	17	1	0
やる気の向上	8	13	1	0
職場での活用	8	12	2	0



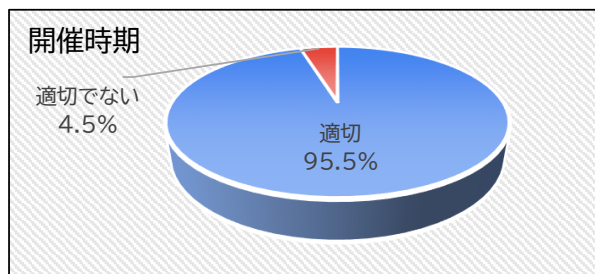
4.開催時期

単位: 名	
適切	21
適切でない	1

〔希望する開催時期について〕

20

・学校法人基礎調査の時期と重なっているため



5.その他

(1)本研修をよりよいものとするための提案

- ・講師であれば、加点されますが、それ以外は、この研修への参加そのものが得点に繋がるものではないと思います。意見交換という意味では必要かもしれませんが、対面の場合は、参加不参加を検討するにあたり、参加することが申請要件に該当するのかわからないのかを、分かりやすく示していただきたいです。
- ・グループワークで作成したシートの共有(他のグループの検討内容もよく見てみたい)
- ・講師(事例発表者)には事前準備を含めて相当のご負担がかかっているものと思います。補助金申請上の加点要素だけでなく、講師を務めることの本質的なメリットが増すよう、質疑応答の時間をもう少し充実させ、質疑だけでなく受講者から講師へのフィードバック(意見・感想)を増やすことができると良いと思いました。
- ・私自身が実務をメインで担当しておらず、改革総合支援事業自体の理解が乏しい中で、事前に補助金制度そのものについて理解するために事前学習課題のようなものがあっても良いかと思った。
(開催時期が年度の始めなので、新たに担当された方にとっても効果的かと感じます)

(2)上記以外の感想や意見

- ・他大学との交流や意見交換・課題共有を行うことができ有意義な研修となりました。(2件)
- ・お忙しい中ご準備いただき貴重な事例を共有いただいた講師担当のみなさま、研修会をとおして意見交換しやすい雰囲気づくりをいただいた企画担当のみなさま、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・いつもありがとうございます。お疲れ様でした。今回の内容の難易度設定は、今年度から補助金担当になった人は各大学内でざっくりとでも引継ぎを受けて、ある程度の知識があることを前提とした内容だったと感じたのですが、それぐらいの難易度でしたでしょうか。自分自身の予習不足、勉強不足を感じました。
- ・グループワークを行いました。あるA大学の方は、自己紹介以外全く発言がなく、またB大学は内容を全く理解されていない様子でした。以前参加した際には、他の大学と課題を共有できたり、解決策を考えたり、活発に議論ができました。今回のグループワークでは、得られることがなく、発表も押し付け合いという感じで残念でした。事務局の運営に全く問題はありませんが、参加されるからには内容を理解してしっかり発言していただきたいと感じました。
- ・得点を上げるためには「複数回」の参加が必要のため、今回のような場を年に2回以上設けていただくとありがたいです。
- ・今回他機関での取組方法や獲得のための新しい視点が得られ、大変参考になった。

(3)今後、大阪府内地域連携プラットフォームで実施してほしい研修

- ・同様の直接的な交流の場があればより良いと思いました。
- ・今後、募集が思うようにいかず補助金を獲得したい大学が増えてくるのではないかと思いますので、分科会1参加校以外も対象で、改革総合支援事業を含む補助金の基礎の基礎をレクチャーするような研修の需要はないでしょうか。競合する大学同士でもあり、共同していく仲間でもありどこまで介入するかのバランスが難しいところですね。
- ・プラットフォームにおける大学間協力体制を推進するような研修があればありがたい。